

蒲生地区  
まちづくり会議提言書

令和6年(2024年)11月12日

蒲生地区まちづくり会議

～提言にあたって～

第5次総合振興計画後期基本計画策定にあたり、蒲生地区では、委員21人で構成する地区まちづくり会議を開催し、慎重に議論を重ねてまいりました。

地区まちづくり会議において、地区の現況や課題を整理し、今後の地区のまちづくりに関する意見交換を行い、ここに提言としてまとめております。

住民にとって、この地区に住んでよかった、また越谷市に住んでよかったと思える、よりよいまちとなるよう、私たちの思いを込めたこの提言書を尊重いただき、今後、計画の策定を進めていただきますようお願い申し上げます。

令和6年11月12日

蒲生地区まちづくり会議

会長 浅見 昭一

# 1 第5次越谷市総合振興計画における地区の将来像とまちづくりの目標

## (1) 蒲生地区の将来像

緑豊かな 心ふれあう ふるさと蒲生

## (2) 現況と課題

### 【現況】

蒲生地区はJRの南越谷駅、東武鉄道の新越谷駅、蒲生駅という3つの駅を有し、区内を走る主要幹線道路の整備も進むなど、交通の便に優れた環境にあります。また、公共施設や生活に必要な施設が充実するなど、良好な住環境が整っています。

こうしたことから、マンション等が増え、新たな人口の流入もあり、住民のライフスタイルは多様化していますが、自治会活動による人のつながりや、地区住民の多さを活かし、蒲生フェスティバルなどのコミュニティ活動も盛んに行われています。

### 【課題】

住民も多くコミュニティ活動も盛んな蒲生地区ですが、参加者や役員が高齢化しており、これまで以上に住民一丸となって、特に新規住民や若い人たちも参加しやすいコミュニティを積極的に作り上げていく仕組みが求められています。また、さらなるコミュニティ活動推進のため、蒲生地区としての一体感あるまちづくりに向けて、学区や地区境界の見直しを求める声もあります。

古くから発展してきた商店街が町のにぎわいの中心でしたが、以前ほどの活気がなくなってきていることから、空き店舗の活用等、活性化に向けた取組が求められています。

蒲生地区はこれまで、災害による大きな被害はありませんが、事故や犯罪、自然災害に対する日頃の備えが重要であることから、地区としても住民の安全を守る取組が求められています。

キーワード	魅力	課題
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 自治会活動が盛んである</li><li>◇ 地区住民が多い</li><li>◇ 子どもや親同士のつながりがある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 新規住民や若い人のコミュニティ活動への参加が少なく、役員が固定化、高齢化している</li><li>◆ 飛び地や学区の問題により一体的な活動が難しい</li></ul>
子育て・にぎわい	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 公共施設が充実している</li><li>◇ 夏祭りなどが盛んである</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 子どもが自由に遊べる場所が少ない</li><li>◆ 商店街に以前ほどの活気がなくなってきている</li></ul>
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 鉄道駅があり、通勤・通学に便利である</li><li>◇ 道路の整備が進んでいる</li><li>◇ 災害による被害が少ない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 狭い・暗い道路（歩道）がある</li><li>◆ 手助けが必要な人がどこにどの程度いるのかわからない</li><li>◆ 地区が分断されているため、災害時の活動や情報共有が難しい</li></ul>

### (3) まちづくりの目標

目標 1	あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり
目標 2	子どももまちもみんなで育む ほどよく“おせっかい”なまちづくり
目標 3	安全で安心して暮らせるまちづくり

## 2 取組の体系

### 目標 1 あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり

#### 重点的な取組 1-1 新たな人材（特に若い世代）の参加促進

【方向性】

- ① 参加のきっかけづくり
- ② 新しい人が入ってきやすい組織づくり
- ③ 学校との連携

#### 重点的な取組 1-2 新たなまちづくり活動に向けた進化、改革

【方向性】

- ① コミュニティ活動の活性化
- ② 地区の再編検討

### 目標 2 子どももまちもみんなで育む ほどよく“おせっかい”なまちづくり

#### 重点的な取組 2-1 子どもたちが元気に遊ぶまちづくり

【方向性】

- ① 子どもたちの自由な遊びの支援
- ② 放課後活動の支援

#### 重点的な取組 2-2 まちのにぎわいづくり

【方向性】

- ① 商店街の活性化

## 目標3 安全で安心して暮らせるまちづくり

### 重点的な取組3-1 安全に生活できる交通環境の整備

【方向性】

- ① 交通ルールの遵守
- ② 交通安全のための環境整備

### 重点的な取組3-2 安心して生活できる防犯のまちづくり

【方向性】

- ① 犯罪を防止するための取組
- ② 夜道を明るくする取組

### 重点的な取組3-3 地区住民を守る防災のまちづくり

【方向性】

- ① 安全に避難できる体制づくり
- ② まちなかの災害対策

### 3 提言内容

#### 目標 1 あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり

##### 重点的な取組 1 – 1 新たな人材（特に若い世代）の参加促進

活発な地域コミュニティを維持していくためには、新たな人材、特に若い世代の参加が不可欠であることから、イベントや行事をきっかけとした地域活動への参加を促すとともに、学校との連携により子どもたちや親世代が気軽に参加できる仕組みをつくりまします。

方向性	具体的な内容
① 参加のきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>● あいさつを通じた顔の見える関係づくり</li><li>● 蒲生フェスティバルへの参加・協力、呼びかけ</li><li>● 多世代が交流できる行事の企画</li></ul>
② 新しい人が入ってきやすい組織づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新たな組織づくり、活動の支援</li><li>● 中高生、大学生から参加できる地域活動</li><li>● 成人式の実行委員と自治会活動の連携</li></ul>
③ 学校との連携	<ul style="list-style-type: none"><li>● 学校と地域の情報共有</li><li>● 小中学校の行事への協力体制づくり</li><li>● 自治会と学校とのつながりを強めるイベントの企画</li></ul>

##### 重点的な取組 1 – 2 新たなまちづくり活動に向けた進化、改革

コミュニティ活動を活性化するために、自治会での活動情報の共有や発信はもとより、自治会同士の交流を推進します。また、地区の再編について、住民意見を把握、集約した上で、よりよいコミュニティ区や学区のあり方について市と協議していく必要があります。

方向性	具体的な内容
① コミュニティ活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"><li>● コミュニティ活動情報の共有と発信</li><li>● 自治会同士の交流</li></ul>
② 地区の再編検討	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地区の再編についての住民意見の把握・集約</li><li>● 隣接する地区間での再編に向けた調整</li></ul>

## 目標2 子どももまちもみんなで育む ほどよく“おせっかい”なまちづくり

### 重点的な取組2-1 子どもたちが元気に遊ぶまちづくり

自治会のなかで子どもたちが自由に遊び学べる環境を整えるとともに、子育て中の親を含めて地域住民が目を配り、手を差し伸べる“おせっかい”活動による子育ての手助けを推進します。また、学校での放課後活動など、地域でも支援していく仕組みづくりを進めます。

方向性	具体的な内容
① 子どもたちの自由な遊びの支援	<ul style="list-style-type: none"><li>● 子どもたちが自由に遊び活動できる環境づくり</li><li>● 子育て中の親を含めて支える“おせっかい”</li></ul>
② 放課後活動の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自治会単位での放課後活動支援の検討</li><li>● 地域に埋もれている人材の活用の検討</li></ul>

### 重点的な取組2-2 まちのにぎわいづくり

本地区には、県内有数の商店街があり、これまでまちのにぎわいの中心として親しまれてきましたが、近年はシャッターをおろしている店舗が増えています。このにぎわいを取り戻す取組として夏祭りや様々なイベントを商店街と連動して取り組み、若い力の活躍の場づくりや商店街の活性化につながるまちづくりを進めます。

方向性	具体的な内容
① 商店街の活性化	<ul style="list-style-type: none"><li>● 蒲生フェスティバルと商店街のイベントの連動</li><li>● イベント備品購入などでの地元商店優先</li><li>● 空きスペースの活用方法の検討</li></ul>

### 目標3 安全で安心して暮らせるまちづくり

#### 重点的な取組3-1 安全に生活できる交通環境の整備

主要幹線道路や鉄道駅を抱える本地区では、交通事情の変化により地区内の交通量も増加しており、生活道路への流入による事故などの危険性も増していることから、交通安全のための環境整備を進める必要があります。また、交通ルールや自転車マナーなどの普及・啓発を図っていきます。

方向性	具体的な内容
① 交通ルールの遵守	<ul style="list-style-type: none"><li>● 交通ルール、自転車マナーの遵守</li><li>● 家庭や地域からの交通安全への呼びかけ</li></ul>
② 交通安全のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"><li>● 住宅地でのスピード抑制の啓発看板の設置</li><li>● 危険箇所の情報の集約・共有</li></ul>

#### 重点的な取組3-2 安心して生活できる防犯のまちづくり

近年、子どもたちが犯罪被害にあうケースも増えていることから、地域の防犯パトロールの強化や危険な箇所への防犯カメラ設置などを推進するとともに、自宅門灯や商店の明かりなどで夜道を明るくするなどの対策が必要です。また、地区内の振り込め詐欺の発生件数が増えていることから、住民一人ひとりの意識啓発や互いの声掛けを行うなど、地域ぐるみで防犯のまちづくりに取り組みます。

方向性	具体的な内容
① 犯罪を防止するための取組	<ul style="list-style-type: none"><li>● 防犯パトロールへの参加と協力</li><li>● 日常生活のなかでの見守り</li><li>● 振り込め詐欺対策の勉強会等の実施</li></ul>
② 夜道を明るくする取組	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自宅門灯の点灯による明るい夜道づくり</li><li>● 商店の協力による明るい夜道づくり</li></ul>

### 重点的な取組 3-3 地区住民を守る防災のまちづくり

これまで災害による大きな被害がなく住民も安全だと感じている人が多い地区ですが、ひとたび自然災害が起これば住民の命が危険にさらされてしまうことから、特に地区内で手助けの必要な人についての情報を把握し、いざというときに安全に避難できる体制を整えておく必要があります。また、日頃から安全な避難経路の把握や必要な防災用品の備蓄、まちなかの危険箇所の把握など、災害対策にも取り組みます。

方向性	具体的な内容
① 安全に避難できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自治会による地域住民の把握</li></ul>
② まちなかの災害対策	<ul style="list-style-type: none"><li>● 災害時に危険な箇所や避難経路の確認（防災マップの活用）</li><li>● 防災意識の向上に向けた取組</li></ul>

## 市への期待

### 目標1 あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり

重点的な取組1-1 新たな人材（特に若い世代）の参加促進	
方向性	具体的な内容
① 参加のきっかけづくり	● 地域活動参加へのインセンティブ導入検討（地域で使えるポイント制など）
③ 学校との連携	● 小中学校と地域住民の連携支援

重点的な取組1-2 新たなまちづくり活動に向けた進化、改革	
方向性	具体的な内容
② 地区の再編検討	● 将来を見据えたコミュニティ区、学区の再編検討（中学校の地区内設置等）

### 目標2 子どももまちもみんなで育む ほどよく“おせっかい”なまちづくり

重点的な取組2-1 子どもたちが元気に遊ぶまちづくり	
方向性	具体的な内容
① 子どもたちの自由な遊びの支援	● 子どもたちの遊び場の整備・充実
② 放課後活動の支援	● 放課後活動の取組に対する支援

### 目標3 安全で安心して暮らせるまちづくり

重点的な取組3-1 安全に生活できる交通環境の整備	
方向性	具体的な内容
① 交通ルールの遵守	● 交通安全教育の充実
② 交通安全のための環境整備	● 危険箇所を踏まえた環境整備

重点的な取組3-2 安心して生活できる防犯のまちづくり	
方向性	具体的な内容
① 犯罪を防止するための取組	● 防犯カメラの設置
② 夜道を明るくする取組	● 街路灯の設置

重点的な取組3-3 地区住民を守る防災のまちづくり	
方向性	具体的な内容
① 安全に避難できる体制づくり	● 災害時に備えた自主防災組織や自治会加入の促進 ● 避難所設備の充実
② まちなかの災害対策	● ブロック塀の安全啓発